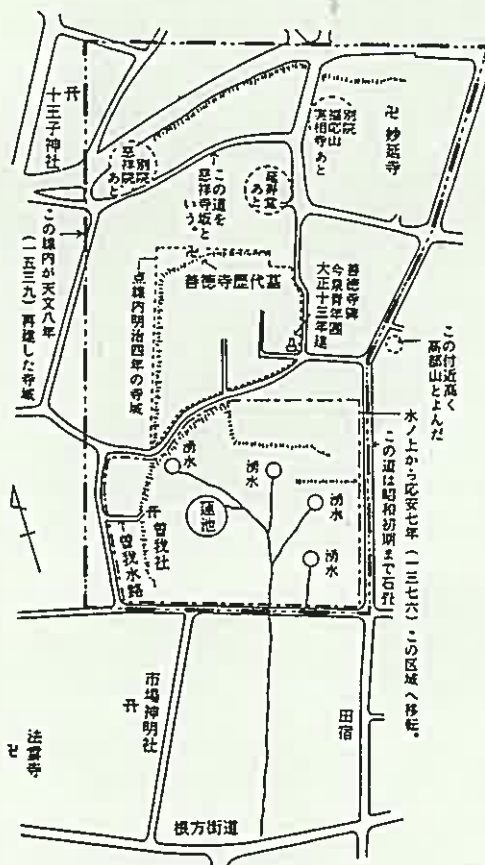


善得寺の変遷

- 1363年(貞治2年) 鎌倉円覚寺の無学祖元門下の大勲策禪師、須津庄小泉(現中里1丁目)に天寧庵を建立する。(善得寺の始まり)
- 1370年(応安3年) 管領上杉朝宗、天寧庵を廃して新たに今泉水の上に福王寺を興し、大勲策禪師を迎えて開山とした。
- 1372年(応安5年) 大勲策禪師逝去。朝宗は大勲策禪師の高弟竺帆禪師を第二世に迎え、福王寺を善得寺に改称する。
- 1374年(応安7年) 善得寺の寺域が狭いため、寺市場に移転する。
- 1417年(応永24年) 第三世景德仲禪師、善得寺を今川氏の官寺とする。以後寺運は隆昌する
- 1537年(天文6年) 北条氏綱、駿河に侵攻し善得寺を始め多数の寺院を焼く。
- 1539年(天文8年) 今川義元、富士川以東に勢力を伸ばした北条氏を撃退し、善得寺を再建する。寺域を広げ、一部は吹上まで及ぶ。河東一の大伽藍として繁盛する。(天文年間の寺勢、塔頭10寺末寺18寺)
- 1554年(天文23年) 善得寺と深いつながりのある今川の軍師・太原雪斎の仲裁で、今川義元武田信玄、北条氏政の三武将が善得寺において、和平協定のための三国同盟を結ぶ。
- 1568年(永禄11年) 武田信玄、三国同盟を破って駿河に兵を進める。
- 1569年(永禄12年) 武田信玄、善得寺を焼き打ちする。
- 1584年(天正12年) 東谷宗景禪師、善得寺跡地に小堂を建てて太原雪斎の木像を安置し、寺の再興を図る。
- 1590年(天正18年) 寺院再建用の木材が、豊臣秀吉の小田原征伐のために徴発される。(以後善得寺を再興する者がない)
- 1871年(明治4年) 廃仏毀釈運動の中で、善得寺は法雲寺に吸収合併され廃寺となる。

善得寺の伽藍造営地域の想定図



善得寺公園



【写真上】『くぐり門と石段』・この奥に善得寺ゆかりの禪師たちの墓石がある。【写真左】『三国会盟の場面』(富士市立博物館) 【写真右】『三武将の庭』・三国会盟の登場者たちを庭石に見立てて、駿河、甲斐、相模産の石を並べてある。



『善得寺』か『善徳寺』か

散見する史料の中では、『善得寺』と『善徳寺』の2つが混同して使用されていますが、一つの傾向として、今川氏の保護下にあった中世では『善得寺』と記述され、江戸時代以降の近世では『善徳寺』と記されているようです。江戸期に『善徳寺』と号したのは、時の支配者徳川家に対する気遣いからとも推察されますが、いずれにせよその始源は『善得寺』であったことを考えると、現在の私たちの呼称としては『善得寺』がふさわしいと思われます。

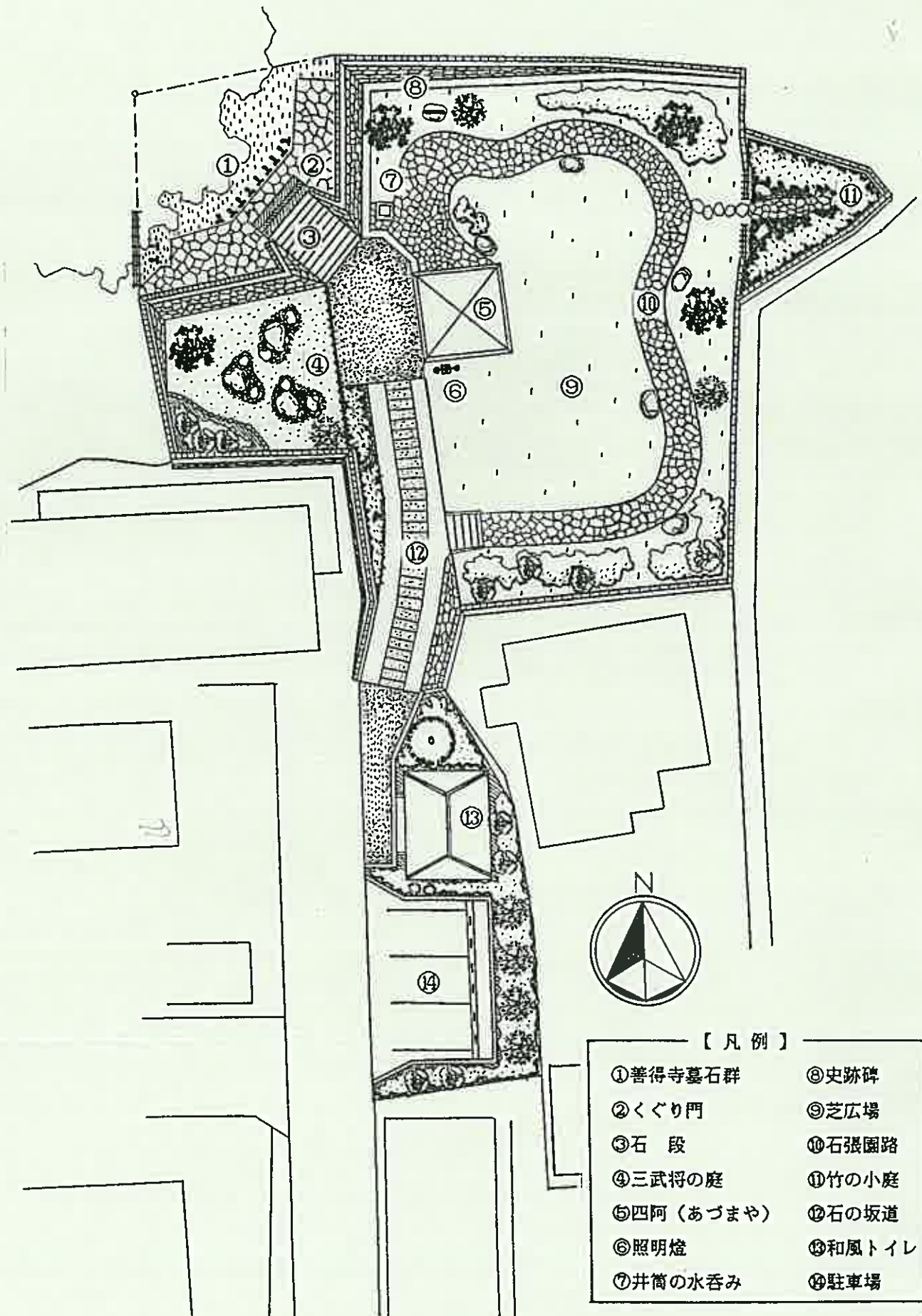
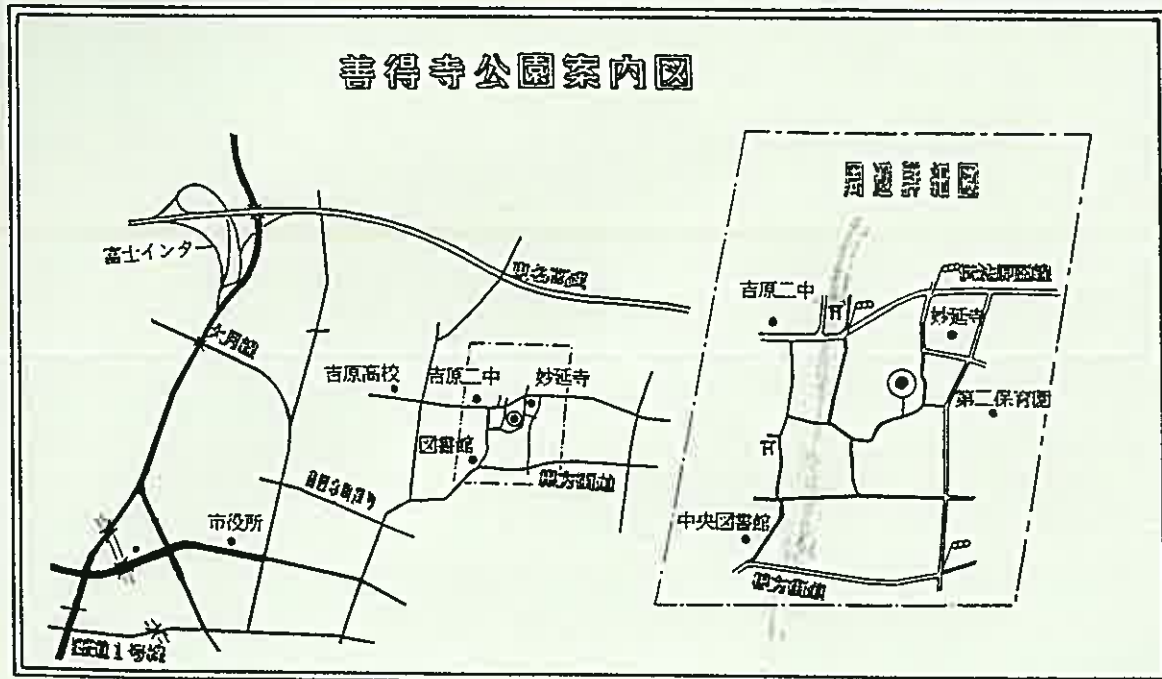
善得寺公園

戦国時代、今川・武田・北条の三氏の和平協定、いわゆる「相甲駿三国同盟」の舞台として歴史にその名をとどめる善得寺。当時は河東第一の大伽藍を擁して偉容を誇った善得寺も、戦国の荒波にもまれて二度の焼討ちにあい、今日ではその面影を偲ぶことはできません。現在善得寺の跡地は、わずかに寺に関係した歴代の禅師たちの墓石を残すに過ぎませんが、今回土地の所有者や関係各位の御厚意により、富士市では初めての「史跡公園」として整備が行われました。

公園にしばしたたずみ、郷土の秘められた歴史の1コマに想いを巡らしていただくことができたら幸甚に思います。

平成2年3月 富士市

| | | | |
|--------|--------------|-------------|-------------|
| 【公園名称】 | 善得寺公園 | 【整備内容】 | |
| 【公園種別】 | 特殊公園（歴史公園） | ・四阿（あづまや）1基 | ・和風トイレ 1棟 |
| 【公園面積】 | 0.09ヘクタール | ・駐車場 3台分 | ・くぐり門 1棟 |
| 【所在地】 | 富士市今泉1015番地 | ・瓦塀 110m | ・園路、広場 400㎡ |
| 【整備費】 | 5,500万円 | ・三武将の庭 60㎡ | ・竹の小庭 30㎡ |
| 【整備年度】 | 昭和63年度・平成元年度 | ・井筒の水呑み 1ヶ所 | ・照明燈 1基 |
| | | ・史跡碑 1基 | |



- 【凡例】
- | | |
|-----------|--------|
| ①善得寺墓石群 | ⑧史跡碑 |
| ②くぐり門 | ⑨芝広場 |
| ③石段 | ⑩石張園路 |
| ④三武将の庭 | ⑪竹の小庭 |
| ⑤四阿（あづまや） | ⑫石の坂道 |
| ⑥照明燈 | ⑬和風トイレ |
| ⑦井筒の水呑み | ⑭駐車場 |